

# 令和6年度和歌山県文化奨励賞

たなか しゅうすけ  
田中 秀介

住 所 大阪府大阪市  
出身地 和歌山県和歌山市  
生 年 昭和61年

## ◎ 業績及び経歴

昭和61年に和歌山市に生まれ、5歳まで同地で過ごした後に転居し、以後は那賀郡貴志川町（現在の紀の川市貴志川町）で育つ。

高校卒業後の平成17年に、大阪芸術大学附属大阪美術専門学校美術工芸学科絵画専攻に進学し、平成19年に同校を卒業後、大阪芸術大学に編入する。平成21年に大阪芸術大学美術学科油画コースを卒業した同年には初個展「信じがたい部分」を開催し、以降も数々の個展やグループ展で作品を発表する。

自身が目にした光景の中から気になった場所、違和感、なぜか目を離せなかったものなど、自身が感じた何かしらの驚きといったものを主題としながら、感情のゆらぎをも描写するという、絵画にとってその困難な課題を、様々な技法を用いて作品に結実させている。ときには遠近法から離れて歪んだような不思議な空間を描き出すなど、その独自の表現で広く注目を集める。

また、作品自体に加えて、作品の題名や作品解説、それに伴う話法、個展名も独自性が高く、その一つ一つが作品を観る者の感情と思考に訴えかけるものがあり、作品の魅力と相まって独特の感動を生み出している。

令和4年には、大阪市立自然史博物館において個展「絵をくぐる大阪市立自然史博物館」を開催し、実際にある展示物を描いた作品を、恐竜等の骨格標本といった本物の展示物の間近で鑑賞するという斬新な展覧会に取り組み、そのユニークなコラボレーションは大きな話題となる。

令和5年には、40歳以下の若手作家の中から未知の優れた才能を紹介する現代美術展「V O C A展2023 現代美術の展望－新しい平面の作家たち－」（上野の森美術館主催）の出品作家の1人に選出され、全国的にも注目を集めている。

近年は海外の展覧会やアートフェアにも出品するなど活動の幅を広げており、今後もさらなる活躍が期待される。

## ■現 在

・画家

## ◆主な表彰歴等

- 平成21年 Art Camp 2009 サントリー賞
- 平成28年 トーキョーワンダーウォール公募2016 トーキョーワンダーウォール賞
- 平成30年 清須市第9回はるひ絵画トリエンナーレ 準大賞
- 令和5年 「V O C A展2023 現代美術の展望－新しい平面の作家たち－」選出
- 令和5年 大阪市咲くやこの花賞  
(美術部門<現代美術>)